

第 4 2 1 回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

1 開催日時 2025年9月8日(月)

2 開催場所 テレビ新潟本社

3 委員総数 8人 出席委員 8人

出席委員

小原 清文 委員長 迫 一成 委員

小山 厚子 委員 杉原 名穂子 委員

浜田 泰宏 委員

書面での出席

本宮 宏美 委員 大久保 千春 委員

石井 宏明 委員

会社側出席者

代表取締役社長 正力 源一郎

取締役コンテンツ本部長 河野 修三

コンテンツ戦略局長兼番組審議会事務局長 小林 健

報道制作局長 中川 幹子

報道制作局次長 須山 司

番組プロデューサー・報道制作部長 倉島 実

事務局 鈴木 英門 坂上 寿史

4 議 題

1) 番組合評

2) 「ドキュメント新潟 “戦禍の残影”

引き裂かれて、生き抜いて」

2025年8月10日（日） 16：25-17：20

3) 会社報告

- ① 7・8月の視聴者の意見 （報告：番組審議会事務局）
- ② 講じた措置、議事概要の公表 （報告：番組審議会事務局）
- ③ 訂正放送、取り消し放送の有無 （報告：番組審議会事務局）

4) その他

5 審議の概要

会社側からは「戦争を経験する方が年々少なくなっている中で、今年は戦後80年を迎えるにあたり、直接証言を得られる最後の機会だ」というくらいの思いで、数多くの特集や番組に取り組んできました。この番組は、特に満州とシベリアの話を中心に持ち上げ、戦後の悲劇といった意味で“戦禍の残影”というタイトルにしました。取材させて頂いた皆さんからは、様々な真実と強い思いを打ち明けて頂くことができました」という趣旨の説明があった。

(委員の意見)

- 戦争がどれほど悲惨なことなのかということが、戦争体験者の非常に重い言葉から、ずっしりと伝わってくる素晴らしい内容だった。冒頭の2分弱の間に重ねられた言葉で一気に引き込まれた。
- アーカイブと新しい取材を結合させることで、戦争の悲惨さの核心を伝えるとても評価できる番組だった。
- タイトルにあった“残影”の意味合いを、ナレーションなどでもう少しわかりやすく伝えてもよかったのではと感じた。
- 改めて戦争について知らないことが沢山あるのだなと思い知らされた。この番組で、戦争の新たな真実を知ることができた。
- 番組制作者の強い意志を感じる番組だった。戦後80年をただなぞるだけでなく、記憶を記録に置き換えて次世代に引き継いでいくことの重要性をあらためて認識した。
- ハルビンや開拓団の村、抑留された経路、帰国の経路などを、簡単でもいいので地図で示してもらえるとわかりやすかった。
- 新潟にまつわる人や場所を取材していたので、遠すぎる話にならず、戦争を知らない世代からの声が入っていたのも良かった。
- 映画やドラマで見る戦争の悲惨さとは違い、当事者から直接話を聞いたことが、この番組の素晴らしいところだと感じた。
- タイトルやテロップが、必要以上に仰々しくなく、かといってチープでもないバランス感が良かった。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

7月……214件 7月……225件

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会の開催日(2025年7月28日)から、
昨日(2025年9月7日)まで総務省に届け出た
訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

7 審議機関の答申または意見(前回審議会)に対してとった措置

1) 前回第420回審議会では、

「石田健×ニイガタ老舗 ポテンシャル」を審議いただき、委員の意見は議事概要にて記者、制作スタッフ、社内に周知しました。

2) 番組審議会議事録を全社員、スタッフに共有しました。

8 今回の第421回放送番組審議会の公表

1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支局の県内事業所に 議事概要の書面を準備します。

2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。

3) T e N Yホームページに議事概要を掲載します。

9 参考事項(委員への配布資料)

- ・第420回番組審議会議事録
- ・7, 8月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・BPO報告(NO. 280)

以上